

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 305
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369
E-Mail : naka@church.jp http://church.jp/naka/
発行者 渡辺英俊 (題字 松橋 順)

宣教方針

- ① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
- ② 地域の問題に関わる。
- ③ 諸教会に呼びかけてゆく。

集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

「ことぶき」から「フクシマ」へ

被曝労働を支える人びと



仕事がないのでやむを得ず行なった仕事が、被曝労働だった

寿日雇労働者組合 近藤昇さんに聞く

大阪の釜ヶ崎 東京の山谷と並んで三大寄せ場の一つとされる寿町。寄せ場は日雇いの労働者の集まる町。かつては港湾や建設業の仕事が多く、外国人も多かった。アジアの匂いのする町と言われた時期もあった。

今は、派遣労働者・ネットカフェ難民として全国に散ったが、賃金相場など極端な差がある底辺の労働者の状況は今も変わらない。フクシマの事故の後始末に狩り出されるのはこの層の人びとだ。日雇いの労働者支援の体験から、寿日雇の近藤さんに語っていただいた。

路上生活を強いられる人びと

日雇いの労働者というのは日々雇われ、日々解雇されるという存在です。基本は一日仕事、あるいはその延長としての短期有期雇用です。景気のいい時はこの雇用と雇用の間の期間が短いが、景気が悪くなるとこの期間が長くなります。今はこの間隔がすごく長くなっています。「今年は何日働いたかな」「この二〜三カ月働いてないや」という人も少なくありません。休んでいる間の保障があるわけではなく、ボーナスもなければ昇給もない、そういう中で最底辺を支えてきた人々たちなのです。

この人たちは、仕事や手持ちのお金がなくなると行く場所がなくなってしまう。野宿して路上にいる姿は、日雇いの労働者の明日の姿ではなく、今日の夕方の姿なのです。朝、仕事探しに出かけたけどない、お金も持っていない、部屋代も払っていない、メシも食えない。とりあえず路上

に出るしかない。どんなに労働条件が悪くてもそこにしがついていないと次の仕事が見つからない、メシも食えないのです。バブル崩壊後、全国で収入がなくなり、蓄えも底をつき、どこにも行く

ところがなくて路上に出るしかないという人が「万」という単位で出たのです。われわれは労働組合ですから労働条件の問題とか労働者への啓発をしたいのです、しかし残念ながらそんな条件が今はありません。

日本という国は変な国で、ホームレスという言葉をとても限定的に使っています。事実上路上生活をしている者だけです。数年前のリーマンショック以降、若者がどんな仕事と住居を失っている。寿町にも二〇代三〇代の人が良く来ます。生活保護を受けている人もいます。こういう人たちが登場し始めた頃、「ネットカフェ難民」というようにマスコミ等では言われました。これを国は何と名づけたかという「住居喪失不安定労働者」と言ったんです。それはホームレスとは違うのかと。ホームレス対策予算をそこに使いたくないので、違う名前のものでしてしまっただけです。

原発に送られる人びと

そういう人たちは、実は昔から人の行きがたがない仕事に動員されてきたのです。今で言えばそれが原発です。

福島第一原発では、事故の収束作業に一日三〇〇〇人があたって、休みの日で一五〇〇人と変わっています。人間は七シーベルト以上の放射線を浴びると一〇〇パーセント死ぬと言われており、福島第一にはそういう場所があつて、高線量地域は一〇シーベルトを超えるところがあります。もうロボットを使うしかないんです。

使信

ヨセフの子イエス

わたなべえいしゅん
渡辺英俊

母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒にいる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表沙汰にするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。……」(マタイによる福音書 一章 一八〜二〇節)

クリスマス・ストーリーの世界

クリスマスについて、マタイとルカの福音書が伝えている物語は、紀元一世紀末葉の教会の信仰を、著者たちがそれぞれ物語にしたもので、下敷きになっているマルコ福音書にはないんですね。

ルカのクリスマス・ストーリーは、ローマ皇帝の人口調査で、父親ヨセフが本籍地であるベツレヘムへ帰って登録しなければならなくて、身重の妻マリアを連れてベツレヘムに滞在していた間にイ

エスが生まれ、泊まる部屋がなくて家畜小屋にいたので飼い葉桶に寝かした……という話になっていて。そこにもう一つ、野宿して羊の番をしていた羊飼いたちが、天使のみ告げを受けて拝みにきた話が重ね合わされていて……。世界規模の人口調査という事実はないし、出身地に戻って登録をしなければならぬというのも無理な話で。キリストはダビデの子孫から生まれるという信仰が先にあって、だからダビデの町ベツレヘムで生ま

スーパースタories

「もう冬だなあと感じるのはどんなとき？」という母の質問に、

いもうと「さむくなってきたら……」

あね 「朝晩冷えてきたら……」

という平凡な答え。それを聞いて

ゆは「冬だなと思うのは、灯油屋さんの車の

♪ 垣根の垣根の曲がり角……♪

の曲が聞こえた時……」

(ひと味違う 石倉遊葉

11歳)

れなければならず、「ナザレ人」イエスがベツレヘムで生まれるためには、人口調査という虚構を作って旅をさせなければならず……と、信仰に合わせた物語になっていくんですね。そういう信仰物語の色づけを取り除いてみると、ルカが残るのは、旅の若い夫婦が貧しい羊飼いの家に一夜の宿を借り、その夜にイエスが生まれて、羊飼いのベビーベッドである飼い葉桶に寝かされ、羊飼いたちがイエスの誕生を祝った……という話で。

マタイのクリスマス・ストーリーでは、まず、天に星が現れて、東方の占星術師たちが、それをユダヤ人の王として生まれた方の誕生の徴と読み、はるばる旅をして拝みに来たというストーリー。これは、当時の民間信仰を使って、イエスが王として生まれたのだと言ったためのフィクション。それに当時の王ヘロデが、新

しい王の誕生を恐れて幼児を虐殺したというもう一つのストーリーが貼り合わされている……。これは、暴君で名高かつたヘロデを登場させて、旧約のモーセがエジプト王ファラオの幼児虐殺を免れて生き延びた話をイエスに被せたもの。マタイは、イエスが「新しいモーセ」と言いたかったので、出エジプトの物語を再現させるために、モーセに重ねた誕生物語に続けてジプトに亡命した……という物語を創作してるんですね。

ヨセフの影

新しい出エジプト物語として書き上げられたマタイの誕生物語から、フィクションを除いてみると、ヨセフの姿が浮かび上がって来るんですね。

マルコが記録している貴重な言い伝えで、イエスは村人から陰で「マリアの子」と呼ばれていた……(マルコ六章三節)。男の子が名字のように父親の名前を被せて呼ばれた当時、表向きは「ヨセフの子」と呼ばれていたはずのイエスを、陰で「マリアの子」と呼んだのは、この上もなくトゲを含んだやり方なんですね。イエスの出生の秘密を村の人たちは知っていた……。その背後には、イエスを身ごもった少女マリアの、想像を絶する受難の出来事があったと考えるほ

かないんですね。軍隊が動き、駐留するところには必ず伴う、女性たちの受難がある……。これは、現代でも沖繩から頻々と聞こえてくる女性たちの受難の話と共通している……。教会はこれを「聖霊によって身ごもった」と美化し、おまけに処女降誕という教理にまで祀り挙げてしまったんですけど……。

そういう話じゃなくて、もし、ヨセフが告発したらマリアは石打ちの刑にされたかも知れない……。実際に石を投げつけられなくても、非難・つまはじきの石を投げつけられたでしょうね。身に受けた傷以上に、世間から傷つけられる、苦

まど

▽一〇月×日、在留特別許可を申請していたSさんが、申請却下で退去強制になると……。永住資格のある女性と結婚し、相手の娘の義父として家族生活を作ってきたのに、一人だけ帰れという話。新入管法施行に伴い、在特を弾力的に運用して欲しいという要請をしてきたのに、実際はその逆を行って、家族を引き裂くむごい措置がとられる傾向。大急ぎで書類を作り、法務大臣に再審を申請し直し。この国の夜明けはまだ遠いか。

▽一〇月二二日、主日の仕事を終わってほっとしていたところへ、郷里のの従兄が脳出血で入院したという知らせ。両親が世話になった人なので、翌日の予定をキャンセルして見舞いにと手配中、その

しみのどん底にいたマリアを、ヨセフがおなかの子どもごと引き受けた……というの、マタイのクリスマス・ストーリーからはみ出しているもう一つのストーリーなんですね。

聖霊によって

イエスの誕生という出来事は、若いカツプルの受難の出来事でもあった……。

このことを、教会のクリスマス・ストーリーは、ルカ版でもマタイ版でも、忘れて来たんじゃないでしょうか。そして代々の教会は、話を処女降誕の教理で飾りあげて、一見美しいクリスマス・カー

ことを知らせてくれた甲府の叔母（九三歳）が、電話の直後に倒れて救急入院したという知らせ。偶然にも二人が同じ病院の同じフロアに入院と。翌二二日、見舞いに駆けつけ。従兄は幸い快方に向かったものの、叔母はついに意識が戻らず、翌々日逝去の知らせがあり、週末に葬儀。郷里との絆がまた一つ切れた憾。

▽一〇月二二日、一三日、参議院議員会館に各省庁を招いて外国人施策をめぐる意見交換。こちらは各領域の専門家が作った政策要求を示して、施策の改善を求める。お役所的答弁の壁にぶつかりながら、縦割り行政の矛盾を突く場面も。まだるっこい側面も多いとはいえ、与党議員の仲介でこういう場が持てること自体が大きな前進。

（渡辺英俊）

ドの世界を作り上げてきたんじゃないでしょうか。そしてヨセフは、教会の理想の「聖家族」の父親像を被せられて来たんじゃないでしょうか。

イエスの誕生は、ヨセフの苦渋に満ちた、しかしフィアンセであるマリアへの愛に満ちた決断によって可能になったんですね。ヨセフの内面でどんな激しい葛藤があったかは、想像するほかないんですけど……。でも、マリアといっしょ

に彼女の負わされた十字架を負おうとする決断であったことは確かですね。クリスマスというのは、そのように十字架のしるしがくつきりと浮かび上がる出来事であったということ……。それこそが、聖霊によって起こり得た出来事であったということ……。今も苦しみの中に置かれている人びとと共に、そのことを思い起こしたいと思うんですよ。

クリスマス献金のお願い

イエス様の働いておられるこの街で、わたしたちは二五回目のクリスマスを迎えることができました。毎週語り合える礼拝の席にはイエスが共にいて、神の言葉に心を開かせてくれます。だれにでも限りなく開かれた礼拝は、ひとり一人の力になっていきます。

今年もクリスマス献金をお願いします。昨年は、六一八、一〇〇円のご支援をいただきました。皆様のご支援、ご協力を感謝します。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

支援献金（九月份）
支援献金（十月份）

感謝してご報告いたします。

なか伝道所創立二五周年記念出版
渡辺英俊著

私の信仰Q&A

—キリスト教って何だ？—
ラ・キ・ネット出版（¥1000）

渡辺英俊著

虹を追って—ある牧師の五〇年—
ラ・キ・ネット出版（¥1000）

「片隅が天である—現代への使信」
（¥2200）

「旅人の時代に向かって—二世紀の宣教と神学」
（¥2800）

「地べたの神—現代の（低み）からの福音」
（¥2200）

新教出版社刊

編集 夜回り「元原発労働者」に出

後記 会うことがあります。近藤さん

のお話を聞いてその方々の顔が浮かびました。「命を前提にした労働」、自分もカマキリなりのやり方で続けて行くことと改めて思いました。（す）